

令和6年度宮前区市民提案型総合情報発信事業報告会 摘録 (公開)

日時：令和7年3月24日(月) 13:00～13:45

場所：宮前区役所4階 大会議室(公開)

出席委員：石崎徹委員、人見雅子委員、渡邊早貴委員、小泉幸弘委員
齋藤区長、小出企画課長、小西課長補佐、滋野主任、上中職員、寺田職員
事業実施団体：株式会社イーシーナ、ファミリースマイルプロジェクト

事業報告会(公開)

- 1 開 会
- 2 区長挨拶
- 3 審査委員紹介
- 4 事務局による概要説明
- 5 事業実施団体による報告及び質疑応答
 - (1) ご当地ミッションラリー
株式会社イーシーナ
 - (2) 美しい竹灯籠で里山と人をつなぐ「宮前あかり」プロジェクト～里山を守る竹林整備と竹灯籠～
ファミリースマイルプロジェクト
- 6 閉 会

事業報告会（公開）

（小出企画課長）

それでは、定刻となりましたので、「令和6年度宮前区市民提案型総合情報発信事業報告会」を始めさせていただきます。本日は、お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。事務局として司会を務めさせていただきます、宮前区役所企画課長の小出と申します。よろしくお願いいたします。開会にあたり、区長から御挨拶を申し上げます。

（齋藤区長）

本日は大変お忙しい中、令和6年度宮前区市民提案型総合情報発信事業報告会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。この事業は、令和4年度から始まったということで、今年が3年目となりますが、今年度は2団体に事業を実施していただき、実施にあたってはそれぞれ御苦勞もあったかと思います。工夫しながら進めていただいたということですが、そういった色々な面を踏まえて本日は御報告いただければと思います。皆様のように御自分の強み等を活かして区の事業に参画していただいているということは、区役所としても非常にありがたいと思っており、私自身も皆様の存在を心強く感じているところです。川崎市は昨年度市制100周年を迎え、今年は次の100年に向けたスタートの年となります。この4月から新たな年度も始まりますが、皆様には引き続きさまざまな場面で区の事業に関係していただければと思っています。最後になりますが、本日御参加されているも皆様のますますの御活躍を祈念いたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（小出企画課長）

続きまして、本日審査をお願いする審査委員を御紹介いたします。専修大学経営学部教授 石崎徹委員、公益財団法人かわさき市民活動センター市民活動推進課事業推進係 人見雅子委員、イツツ・コミュニケーションズ株式会社コミュニケーションデザイン本部メディアコンテンツ部 企画広告チーム 渡邊早貴委員、宮前区役所副区長 小泉幸弘委員、以上の4名でございます。審査委員会の会長は、石崎委員が務めます。

それでは次に、本日の大まかな流れについて御説明します。傍聴にいらしている皆様のお手元に配布させていただきました次第を御覧ください。本日の事業報告会は、令和6年度宮前区市民提案型総合情報発信事業の事業報告として、今年度採択した2つの事業の成果を評価し、来年度以降の取組の参考としていただくために行うものです。各事業実施団体が公開の場で事業実施内容や事業を実施したことによる効果等を説明し、その後、審査委員会委員の皆様による質疑を実施します。さて、事業報告の流れですが、1事業ごとに事業実施団体から発表していただきます。1事業あたりの時間配分は、発表が10分間、質疑応答が10分間となっております。質疑応答終了後に次の団体の発表まで2分間ございますので、その間に、次の団体の発表者は発表の準備をお願いいたします。私の方から団体名を紹介した後に事業報告を開始してください。各団体の発表と質疑応答の時間については、終了の1分前に事務局がベルを1回ならします。終了時間になりましたらベルを2回鳴らします。すみやかに発言を終了するよう、御協力をお願いいたします。説明につきましては、前方の「発表」と貼ってある機のところでお願いいたします。事前にお送りいた

だいた発表用の電子データにつきましては、机に置いてあるパソコンのデスクトップに、提案団体名を付けたフォルダがあり、その中に格納しています。発表開始前の準備の時間にそのフォルダから電子ファイルを開いていただいて、発表に使用してください。

最後に3つほど、諸注意を申し上げます。この事業報告会は、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき公開で行いますので、傍聴を認めておりますが、傍聴の方につきましては、質問を行う等、発言はできませんので、御了承ください。また、記録、広報及び報道発表の資料といたしまして写真撮影をさせていただきますので、御了承をお願いいたします。なお、お持ちの携帯電話につきましては、マナーモードに設定するか電源を切るようお願いいたします。事業報告会の終了予定時刻は午後1時55分を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。よろしければ事業報告会に入らせていただきます。

【株式会社イーシーナ】

〈発表〉

〈質疑応答〉

（人見委員）

なかなか苦戦したようだが、地域のお祭りなどにおいて、スタンプラリーなどイベントを回ってもらう工夫をするときにぴったりなのではと思っていた。今後に向けてというところで、役に立つコンテンツを作成した際にはまた提案したいとお話もあったが、少し条件を変えることで、各イベントでミッションラリーの仕組みを活用することなどは可能か。

（事業実施団体）

イベントでの活用については可能性を感じた部分はある。しかし、現状の設計としては、祭りに合わせて作っていくというより、広いエリアを対象としたスタンプラリーのような形で作っているの、イベントとコラボして作ることもできるが、管理画面の関係や登録方法など、すぐに地域の祭りで使っていこうというのは難しい面がある。

（人見委員）

名所などを紹介するのであれば、現地に行く方法もあるが、お祭りの中で紹介するなどクイズラリー的に行うこともできるかなと思ったところ。

（事業実施団体）

対面で話しながらなど、その場の臨場感がある中でやってみよう、という流れにはなるかもしれない。また、お祭りに来る人はその場で時間を使おうと思って来ているので、そういった方には一定の効果があると考えている。

（渡邊委員）

お店の協力を得るのが大変だったという話があったが、すでに実施しているかもしれないが、商店街に声かけをしたり、お祭りと合わせて何かをしたり、また、小学校の総合の学習の時間などで子どもが考えたものとコラボすると、親も知って、一緒に遊んでくれたり

するのではないかと感じた。

（事業実施団体）

小学校にはチラシを配布したほか、鷺沼の店舗でミニブースを出した際には親子で回っている方が何組かいた。商店街にも設置依頼の話をしたが、場を設けてうまく設置するところまではもっていけなかった。小学校にももう少し深く関わって直接アプローチができれば違ったかもしれない。

（小泉委員）

参加者に区内の歴史ある施設やお店を回ってもらうのがこのミッションラリーの目的だと思う。課題として、宮前区で時間を使う考えの人が少ないことがわかったという話があったが、宮前区は観光地ではなく、ベッドタウンという土地柄。そういった宮前区でどのようにしたら施設やお店に足を運んでもらえるのか、厳しくはなってしまうが、提案段階でもう少し詳細に調査していただけると違った提案があったのかなと残念に思う。本登録アカウントについて、大きな収入源であり景品の原資でもあったと思うので、事業的にも厳しいものになってしまったのかなと思う。今後に向けて前向きな提案もいただいているので、今一度宮前区の魅力を発信いただける提案を今後も検討いただけるとありがたい。

（事業実施団体）

真摯に受け止めたい。

（石崎委員）

目標達成率が 45%ということで、まず登録をしてもらう点が重要だったと感じる。また、無料登録の範囲内でも、登録した人がさらにアクションを起こす転換点に何か一つ課題があったのではないかと感じた。また、審査時にも議論となった 500 円の課金の件について、要するに買うかどうかということが、買わなかったという結果だったのだと思う。500 円出してもやろう、買おうというインセンティブがあれば、仮に目標には届かなくても、登録から購買に至るまでのプロセスをもう少し上げることはできたのではないかと感じている。また、宮前区が持つ難しさは確かにあるが、ターゲットが分散してしまったのではと感じる。結果として 30、40 代の登録が多かったが、アプローチが分散し、うまく囲い込みができなかったという印象。逆に宮前の難しさを克服できるようなターゲットをうまく囲い込めると、うまくできる部分もあるのではないかと感じた。

（事業実施団体）

おっしゃる通り。本登録について、お祭りに実際に出向いて対面でとなると、観光地の例ではアプローチとして大きかったが、さぎ沼祭りに関しては、まずたくさんの人に触れてもらおうというところで、本登録へは誘導しなかったところ。弊社の読みが甘かった部分はある。

【ファミリースマイルプロジェクト】

〈発表〉

〈質疑応答〉

（小泉委員）

鷺沼小学校から声がかかって出張講座も行ったとのことで、里山保全と学校の授業がうまくマッチングできた良い取組だと感じた。例えばとんもり谷戸に近い小学校などにもぜひ積極的にアプローチいただいて、地元の里山を地元の子どもたちが守り、自分たちのふるさとと感じられるような取組を続けていただければと思う。参加人数としては10人程度だと思うが、より多くの子どもたちにこういった谷戸や自然があるということをアピールできるように、こういう自然が宮前区にもあるということを広く活動の中で展開していったほしい。子どもたちを巻き込む、子どもたちを対象とした事業というところに魅力を感じたので、ぜひ続けていったほしい。

（事業実施団体）

校歌に竹が出てくるということで、土橋小学校の寺子屋などからも声がかかっている。また、元々とんもり谷戸から近い菅生小学校は総合授業でとんもり谷戸に入っているが、実は鷺沼小学校のように、里山が近くにはない学校の方が関心が高いというところは感じている。

（小泉委員）

これからタケノコが出てくるシーズンにもなる。ぜひ子どもたちにタケノコ掘りなどの体験もさせてあげられたらと思った。

（渡邊委員）

当初、参加人数としては少ないのかなと思ったが、出張授業やイベントでの展開など、とても良い形で取組が広がっていると感じた。今の子どもたちは野山で遊ぶという経験はあまりなく、危ないからといった理由で制限のある学びの場が多いのかなと思うが、皆さんが見守っていて、教わりながら自然に触れることができ、素敵な取組だったと思った。ぜひ続けていただいて、子どもたちが毎年楽しむ風物詩のようになるとよい。

（人見委員）

竹の明かりを作ることを中心に環境について考えたり、実際に運んだり切ったりして竹の重さや硬さを体験できてよかったと感じる。参加した子どもたちが楽しかったというだけで終わらず、次のステップへの橋渡しができるとうい。今後も活動されていくとのことだが、この事業としてはいったん終わってしまうが予算などについて何か考えているか。

（事業実施団体）

7年度にかけては緑化フェアがあり、予算の面では難しいところはあるが、大きな予算ではなくても、現在生田緑地などで竹灯籠の作成を有料とし、これを活動費としている。たくさんのお金ではなくても、そこに関わってくれる人が少しずつ増えている点は、竹灯籠を取り上げて里山保全につながることをやっていた良かったと感じている。もし来年度間に合えば市民活動センターの助成金も検討したい。

（石崎委員）

里山保全・竹林整備というテーマがあり、それを持続していく、竹灯籠作りを子供たちに経験してもらうということについて、一つは竹を伐採しなければいけない、これをどう活用するか。この課題を今後どうしていくかについて、展望があれば教えていただきたい。

（事業実施団体）

まず竹灯籠を選んでテーマとしたが、先ほどの収入源の話も同様だが、もっと色々な形で考えていきたいと思っている。例えば竹炭にするとか、竹を使って流しそうめんをするなど、アクティブの部分を有料化して活動費に回していく、ということを少しずつ行っている。ただ流しそうめんを食べるだけでなく、竹から切って、流しそうめんまでできるというのが私たちの強みだと思っている。継続できる形を模索していきたい。

（小出企画課長）

以上で、2事業の報告及び質疑応答が終了しました。審査委員の皆様、事業実施団体の皆様、どうもありがとうございました。事業実施団体の皆様におかれましては、本日の主な御意見を各団体の今後の取組の参考としていただければ幸いです。審査委員の皆様は、休憩後、13時55分までに第2会議室に御移動をお願いいたします。本日は、誠にありがとうございました。

以上